

丹波市×関西大学 大学連携協定から 15 年を振り返る

丹波市と関西大学（本部：大阪府吹田市）が連携協定を結び、昨年で丸 15 年を迎えました。活動の拠点となっている佐治スタジオで前田裕学長、林時彦市長、出町慎佐治倶楽部代表理事の 3 人が対談し、15 年間の歩みを振り返りました。

問ふるさと定住促進課（本庁舎内） ☎ 88 - 5360



これまでの取り組み

平成 18 年 10 月	日本建築学会創立 120 周年記念近畿支部主催事業「美しくまちをつくる、むらをつくる」提案競技で、関西大学の学生による作品「想いの束」が丹波市長賞を受賞
平成 19 年 4 月	佐治で大学研究室の活動が始まる第 1 回「丹波ゼミ」を開催
平成 19 年 7 月	丹波市と関西大学が連携協定を締結
平成 19 年 10 月	「農山村集落との交流型定住による故郷づくり～持続的に“関わり続けるという定住のカタチ”による 21 世紀のふるさとづくり～」が文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択される
平成 20 年 2 月	佐治スタジオ（1 階）改修竣工
平成 22 年 3 月	本町の家（1 階）改修竣工
平成 22 年 8 月	第 1 回 ATACOM（アタコム）にて愛宕祭での造り物を制作
平成 23 年 1 月	地元住民、関西大学関係者等が空き家活用サークル「佐治倶楽部」を設立（令和 3 年に法人化）
平成 28 年 3 月	衣川會館改修竣工（学生も改修に参加）
令和 4 年 7 月	関西大学との連携協定締結から丸 15 年を迎える



佐治スタジオ全景

活動の拠点「佐治スタジオ」
丹波市と関西大学とのつながりのきっかけは、青垣町佐治を舞台に行われた建築コンペで建築学科の学生たちのグループが丹波市長賞を受賞したことでした。
今回対談の会場となった関西大学佐治スタジオは、青垣町佐治の空き家を所有者から借りて、建築学科の学生たちが中心となった改修作業を経て誕生しました。市外から来る学生の活動拠点とするために設けられ、講座や打ち合わせなどの利用のほか、ちょっとした修繕やリノベーションが学生の活動の一環として行われています。普段の管理、運営は地域の団体が担い、学生だけでなく地域の人にも、活動や交流の場として利用されています。



関西大学
学長 前田 裕さん

関西大学システム理工学部教授、
専門は制御理論、コンピューター
シヨナルインテリジェンス。

佐治倶楽部
代表理事 出町 慎さん

関西大学建築学科卒業。建築コ
ンペ参加以来、連携活動にかか
わり、1ターンで丹波市へ移住。

市長 林時彦

丹波市第3代市長として、令和
2年12月に就任。「子どもたち
に帰ってこいよと言えるまちづ
くり」に邁進中。

地域の理解深まり活動継続

前田学長（以下前田） 15年

間、連携活動が続けてきま
した。振り返ってみると、
地味な部分も多かったかも
しれませんが、地元のニー
ズを理解し、ネットワー
クをつくるなど、地に足がつ
いた形で活動をしてきたこ
とが、長く連携が続いてい
る理由なのかと思いました。

出町 活動当初、地域の人

たちは「何が起ころんだ」
という不安を感じながら私
たちとお付き合いたいだ
いしていた印象です。長く取
組みを続けてきたことで、
現在は互いの理解が深まり、
すごく良い関係になったよ
うに感じています。

前田 私がかつて丹波市に

来たときは佐治スタジオで
の活動が始まったばかりの
頃でした。今後の連携の形
について、丹波市の方から
話を聞かせていただいたの
を覚えています。それから
約10年の間にさまざまな形
に仕上がった姿を目の当たり

にし、感動しています。

林市長（以下林） 学生が丹

波市で活動することは、ま
ちの活気にもつながります。
活動のなかで、地域のお祭
りにも学生が参加してくれ
ていました。市内各地では
祭りの担い手が不足し、実
施が困難なところもありま
す。こうしてかわつてく
れるのはありがたいですね。

前田 大学には都市部出身

の学生が多く、都会から離
れた場所での暮らしや文化、
地域連携活動に興味がある
学生は多いです。そういつ
た学生を集めて、丹波市を
盛り上げに行くことはでき
ると思います。ぜひ声をか
けていただきたいと思います。

林 丹波市を訪れ、かわ

りを持ち続けてもらうこと
は、直接的な移住や定住に
つながらなくてもありがた
く、大事なことです。

出町 確かに、すぐに定住

につながらなくても、10年、
20年とかかわりを持ち続け

ることは関係人口の面でも
大事ですね。田舎をふるさ
とに持たない学生も多いの
で、彼らにとっては新しい
ふるさとにもなるかもしれ
ません。

前田 この活動にかかわつ
た学生が将来、1ターンな
どを考えると、丹波市を
選択肢のひとつに考えるか
もしれませんからね。

出町 活動に参加していた
市外出身の学生で、現在1
ターンとして丹波市で働い
ている人もいますよ。丹波
市には魅力的な企業がたく
さんあります。キャリア面
の情報を学生に共有できれ
ばさらに市のPRにつなが
りますね。

林 市内の企業は人手不足
が悩みです。国内で多くの
シェアを持つ企業なども多
数あるので、知ってもらえ
るように情報共有やアピ
ールをしていきたいですね。



コロナ禍で生まれた新しい交流の形

前田 学生にとって、イベントなどを通して地域の人たちと触れ合う機会があることは重要です。コロナ禍の影響で、課外活動や交流は満足にできませんでした。

出町 確かに、コロナの影響を受けて交流の形は大きく変化し、オンラインでのやり取りが浸透しましたね。

林 市役所でも災害対策本部会議などをオンラインで行うようになりました。移動時間や場所の制約を受けずに行うので、便利になりましたね。



前田 おっしゃる通り、現在はオンラインで、地域のミーティングやお祭りにも大学や自宅から参加し、現地の雰囲気を感じることができるようになりました。

出町 コロナ禍でなかなか地域に行くことができなかった反面、地域に行きたいという学生のモチベーションはより上がっていますね。

前田 オンラインが浸透してこれまで現地に行く事が難しかった学生も参加しやすくなりました。実際に行っている体験する、人に会うということは絶対に必要です。でも、今回はオンラインだ

ったけど次は実際に行きたい、そのようなかわり方もできるツールを手に入れたと言えると思います。

出町 確かに、学生はこういった田舎で過ごす体験があまりありません。初めて来ると不便なこともあると思いますが、こうしたところで過ごすことが学びにもなると思います。

地域の課題解決と関係人口の増加

前田 関西大学には、大学に昇格した100年前に提唱された「学の実化」という理念があります。これは、学理と実際の調和、つまり、学問と、経済も含めた実際の社会との相互作用を意味しています。連携活動では、この理念に基づき、学生が丹波市で地域の課題を肌で感じ、大学での学びを地域の課題解決や活性化につなげる学びに発展させていきたいと思っています。



林 コロナ禍で交流の形が変化し、これまで丹波市とかわりがなかったような学部の学生とも新たな交流ができる可能性を感じています。市としてもさらに受け入れ体制の充実と整備をしていきたいと思っています。

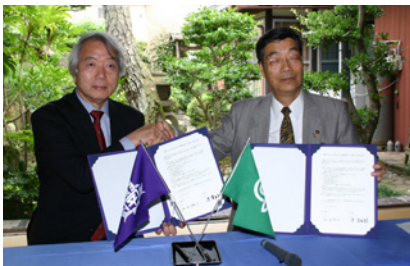
前田 大学には多くの学部があります。この活動のつながりを学内でさらに広げていきたいですね。また、学びのフィールドとして、学生が丹波市での体験を持ち、将来的には第2の故郷として戻ってくる。卒業後も紅葉や雲海を見に丹波市に来るといったのが続くと、大学としても人生の中で長

くお付き合いできる第2の故郷を学生に提供できたということであれしいです。ぜひそういう存在になつてほしいと思います。

林 関西大学との連携のおかげで青垣地域には、複数の活動拠点ができました。これからも若者の関係人口増と地域の活性化のために、よりよく願っています。

前田 今まで15年間ありがとうございました。これから、よろしく願っています。





平成19年7月丹波市と関西大学とで連携協定を締結



改修中の佐治スタジオ



改修が完成した佐治スタジオ



「あおがき道の駅のタベ2022」に参加してイベントを盛り上げる学生たち



学生グループ「ATACOM」が青垣町佐治で風鈴を使った地域交流を実施



大学ゼミで取り組まれている市内を巡るフィールドワーク



市内で実施された木造建築基礎講座



地域の方々の協力を得ながら取り組んだ古民家活用実践講座



地域活性化を目的に地域団体と学生が一緒にハロウィンイベントを開催

関西大学在学中から丹波市での活動に参加し、大学院卒業後に丹波市へ移住しました。現在はコディネーターとして大学の先生や学生、地域の方々と協力しながら事業の企画や運営をしています。この活動は「関わり続ける定住のカタチ」をテーマに、大学や学生と地域が緩やかにつながっていくことを当初からの目標に掲げ、現在もそれを目指して活動を継続しています。

しかし、15年以上続けるうちに、丹波市の現状は活動当初とは大きく変わっています。地域の活性化などの丹波市の現状の課題を克服するために学生たちが力を発揮できるように、今後はさらにたくさんの方が丹波市にかかわりやすい環境を作っていききたいと思っています。



特定非営利法人
佐治倶楽部事務局

うえ じ ぼく
植地 惇さん

丹波市は山が近く、四季がはつきりし、地域の方や子どもたちとの距離感など、親しみやすい印象がありました。氷上町成松の愛宕祭では子どもたちと学生らが、すぐ打ち解けていたのが衝撃的でした。祭ではATACOMという学生団体で造り物の制作にもかかわりました。私の住む地域の大きなイベントとは違い、地元の人たちが祭りを運営する姿や自治会ごとに制作する造り物などは新鮮でした。

関西大学の連携が長年続いていることから、私が丹波市を訪れると「関大の子ね」と地域の人から声をかけてもらえ、うれしかったです。私たちの活動が地域に根付いていることを実感しました。学生が田舎の現状や課題を知る機会は少なく、地域に目を向ける良い機会となっています。



関西大学大学院理工学研究科 環境都市工学専攻建築学分野在学

むね やす ゆう き
宗安 勇輝さん